

まちの 散歩道

85

盆栽と「BONSAI」

船尾盆栽愛好会長 坂田勝男さん（漆原西）



昭和46年3月に柴崎源喜さん（故人）を中心に、盆栽の仲間の集まりを作ろうというので、船尾盆栽愛好会が結成されました。当時はサツキのブームで、村

の憩いの家の軒下で定期的にサツキの交換会を行っていました。当時の会員数はおよそ70人くらいで、5月末には埼玉県の花園や栃木県の鹿沼までバス2台で出かけ、盆栽の研修を行っていました。東京の上野で開催される全日本サツキ展にも会員数名で出かけたこともありました。

愛好会の恒例の行事は、まちの文化センターで、3月・6月・11月に展示会を開催し、数年前までは知事賞・副知事賞・町長賞などの賞も出されてきました。私は、皐月や松柏をはじめ現在150鉢の盆栽を栽培しています。毎日の手入れが唯一の楽しみです。ヨーロッパを中心に海外では

「BONSAI」のブームが起こっています。ぜひ、文化センターで展示会を開催している時には気軽に声をかけてください。一緒に盆栽について語りま



議会を 傍聴して



橋本 竹義さん
（上野原）

本日、議会を傍聴させていただきました。地区道路の件に関して、かねてより不都合を感

じていた一人として大変関心のあるものでした。上野原は南北に分かれた地区で一つになっていますが、二つの地区の往来には榛東を通らなければならず、親睦を図るのにも不便が生じており、直通の道がないため、何かと遠回りをせざるを得ない現状にあります。

また、食料直売所の新設や企業の誘致の件についても、今後の地区の発展につながることを期待し、是非とも押し進めていただきたいと思われました。最後に、議員皆さまの、今後の益々の活躍を願うものであります。



私生活

あの3・11から3年。そして今回の豪雪を教訓に「ますます助け合える地域」を目指さなければならぬことを！

実は近くに住む孫娘が「高熱が出た」と知らせが入りましたが、行ってやることができずに、居てもたってもいられない思いをいたしました。幸いにも大事には至らず安堵しました。この豪雪災害は私たちにはいろいろなことを教えてくれました。家族の絆、隣近所の方々との雪かきなどの助け合い。

吉岡町は災害のない住みやすい町だと高をくくっておりましたが、今度の豪雪は、想定外のことも起こりうるのが自然災害だということ、まざまざと実感させられました。隣の家に行くこともままならない程の危機感さえ覚えました。

豪雪がもたらしたもの



今井久美子さん
（大久保寺下）

豪雪がもたらしたもの

よしお か クイズ No. 103

- 問1 町長施政方針に対する質問は何人が行ったでしょう。
A. 3人 B. 5人 C. 7人
- 問2 予算決算常任委員会は何日間にわたり行われたでしょう。
A. 2日間 B. 3日間 C. 4日間
- 問3 人権擁護委員の任期は何年でしょう。
A. 1年 B. 2年 C. 3年

[応募方法]

- ★はがきに答えの記号(例1-A)、住所、氏名、年齢、職業(学校名)を書いてください。
- ★正解者の中から抽選で5人の方に、図書カードをプレゼントします。
- ★あて先
〒370-3692
吉岡町大字下野田560番地 役場議会事務局
- ★締め切り 6月1日(当日消印有効)

前回の正解は1-C・2-A・3-Bでした。
応募者の中から、抽選の結果次の方に図書カードを贈ります。(敬称略)

- ・小城 啓明(小 倉) ・永井 緑(下野田)
- ・赤羽根秀子(北 下) ・松岡 豊子(陣 場)
- ・高野 純也(大久保)

私生活ひとこと

東日本大震災を教訓として、各家庭で「非常用持出袋」を用意して置きたいものです。
すべてを行政に任せるとはならず、

「残された者が前を向いて頑張って生きて行く」の言葉が多数でした。もし、この吉岡町が大地震により、家々が全壊するようなことが起きた場合、自分は何をすればいいか、咄嗟には頭に浮かびませんでした。しかし、天災は忘れた頃にやってくると思われています。東日本大震災を教訓として、各家庭で「非常用持出袋」を用意して置きたいものです。

自治功労者表彰

長年の地方自治の振興と発展に貢献

齋木輝彦議員が、群馬県町村議会議長会から、委員会の委員長として活躍されていきます。

議員10年の自治功労者表彰を受けました。現在、齋木議員は、議会活性化特別



共に研修

～視察の受入～

1月～2月

県外から吉岡町議会へ視察に訪れました。

とき	訪れた市町村	視察内容
1月24日	静岡県長泉町議会	議会だよりの編集について
1月27日	茨城県東海村議会	議会だよりの編集について
2月12日	福島県本宮市議会	議会だよりの編集について



静岡県長泉町議会

大震災を教訓に



石井敏夫さん(溝祭)

東日本大震災から3年が過ぎる3月11日、テレビから流れる映像は、津波に襲われ家々が流されていく状況が、そして3年経ってもいまだ復興が進まない現在の状況が映しだされています。被災された方々は、悲しみは癒えないけれど、